

令和4年度第1回千葉県図書館協議会配付資料一覧

- ・次 第
- ・座席表
- ・千葉県図書館協議会委員名簿
- ・千葉県立図書館各館長等一覧
- ・千葉県図書館協議会関係条例・規則
- ・資料1 令和3年度千葉県立図書館事業報告について
(令和4年度要覧 18ページ～33ページ)
- ・資料2 千葉県立図書館行動計画(令和3年度)の実施状況について
- ・資料3 千葉県立西部図書館の障害者サービス事業について
- ・各館の館報等

○参考：千葉県立図書館ホームページ公開資料

- ・令和4年度要覧(本協議会終了後に公開予定。本日は議事に係る抜刷りを配付)

令和4年度第1回千葉県図書館協議会 次第

日 時 令和4年7月5日（火）
午後1時30分から
場 所 千葉県立西部図書館 研修室

1 開 会

2 議長あいさつ

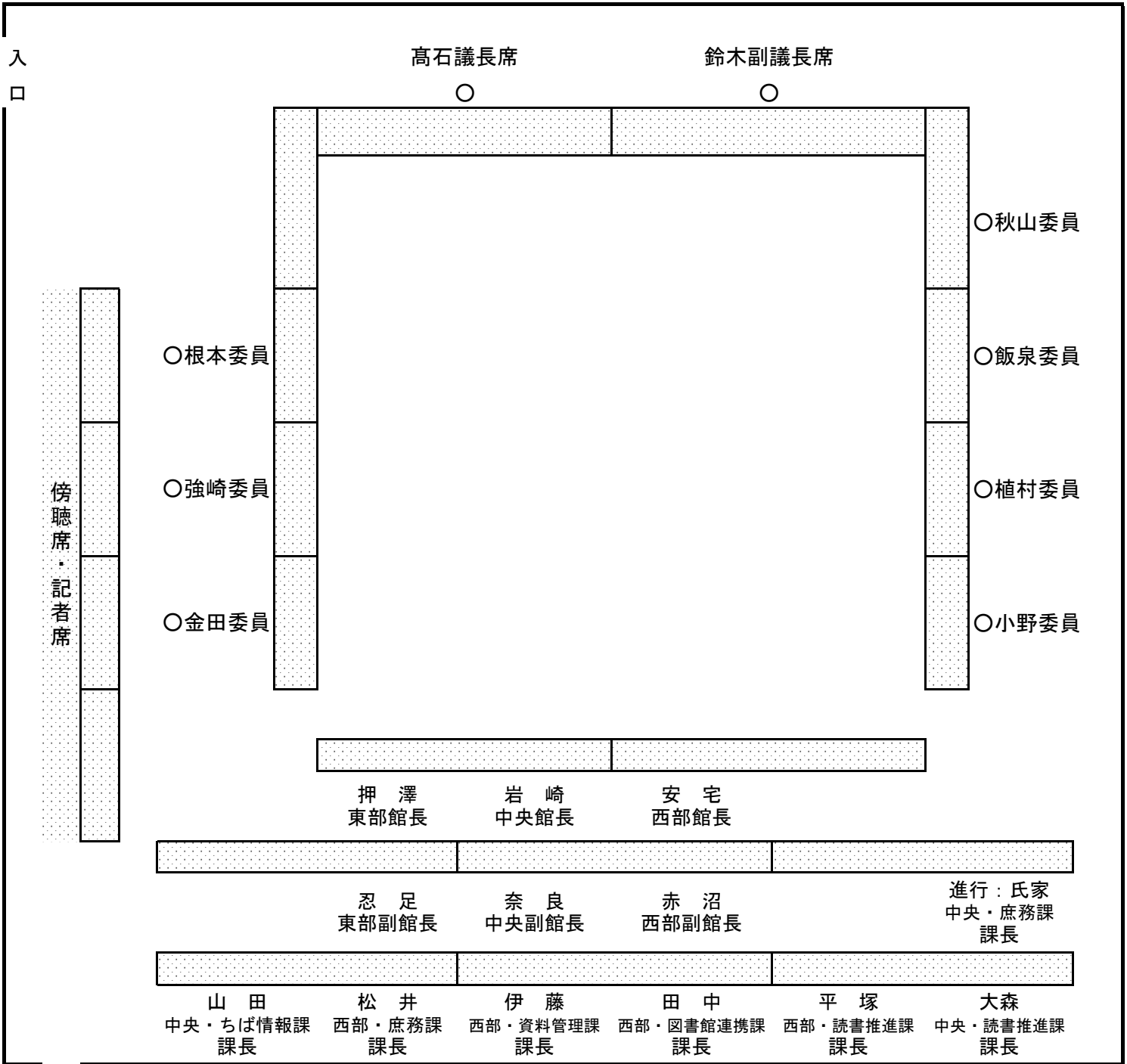
3 議 事

- (1) 令和3年度千葉県立図書館事業報告について
- (2) 千葉県立図書館行動計画（令和3年度）の実施状況について
- (3) 千葉県立西部図書館の障害者サービス事業について
- (4) その他

4 その他

5 閉 会

令和4年度第1回千葉県図書館協議会 座席表



千葉県図書館協議会委員名簿（第36期）

任期 令和3年7月22日～令和5年7月21日

No.	氏 名	所 属 等
1	あきやま みなこ 秋山 美奈子	千葉県特別支援学校PTA連合会会長
2	いらいずみ みゆき 飯泉 みゆき	君津市周南公民館副館長 (君津市公民館連絡会副会長)
3	うまむら やしお 植村 八潮	専修大学文学部教授
4	おの ひみこ 小野 白実子	四街道市立図書館長 (千葉県公共図書館協会監査役)
5	かねだ かずゆき 金田 一幸	千葉県立佐倉南高等学校校長 (千葉県高等学校教育研究会学校図書館部会副会長)
6	ごうざき あやこ 強崎 章子	千葉県PTA連絡協議会副会長
7	すずき ひろこ 鈴木 宏子	千葉大学附属図書館利用支援企画課長
⑧	たかいし たかし 高石 卓	千葉信用金庫理事 (元千葉県立中央図書館館長)
9	ねもと あきら 根本 彰	東京大学名誉教授
10	はまおか まき 濱岡 真紀	東金市立鶯嶺小学校教諭 (千葉県教育研究会学校図書館教育部会事務局長)

所属：令和3年7月22日現在【敬称略五十音順】

○：議長

令和4年度千葉県立図書館各館長等一覧

中央図書館	西部図書館	東部図書館
館長 イサキ マサオ 岩崎 雅夫	館長 アタカ ヒトシ 安宅 仁志	館長 オシザワ ヒロコ 押澤 裕子
副館長 ナラ シンイチロウ 奈良 伸一郎	副館長 アカヌマ チサト 赤沼 知里	副館長 オシダリ テツヤ 忍足 哲也
庶務課長 ウジイ マナ 氏家 麻奈	庶務課長 マツイ シンイチ 松井 真一	庶務課長 サイウ リエ 齋藤 利恵
読書推進課長 オオモリ サヤカ 大森 明香	読書推進課長 ヒラツカ アキコ 平塚 明子	読書推進課長 ワカモト トモコ 若本 朋子
資料管理課長 ナカノ アキコ 中野 晶子	資料管理課長 イトウ ケンジ 伊藤 健司	資料管理課長 スギヤマ ユウコ 杉山 裕子
ちば情報課長 ヤマダ ヒロコ 山田 浩子		
図書館連携課長 ヤマヘ マナブ 山 邊 学	図書館連携課長 タナカ マサミ 田中 雅美	図書館連携課長 イジマ ジュンコ 飯島 純子

○千葉県図書館協議会関係条例・規則

教育機関設置条例（抜粋）（昭和三十二年四月一日条例第四号）

（図書館協議会）

第五条 図書館に図書館協議会を置く。

2 図書館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命する。

3 前項の委員の定数は、十人以内とする。

4 第二項の委員の任期は二年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 前三項に定めるもののほか、図書館協議会の組織及び運営に関して必要な事項は、千葉県教育委員会が定める。

図書館協議会会議運営規則（昭和三十二年八月三十一日教育委員会規則第十号）

第一条 図書館協議会会議（以下「会議」という。）には、委員の互選による議長及び副議長一人を置くものとする。

第二条 議長及び副議長の任期は二年とする。

第三条 議長は会議を主宰する。

第四条 副議長は、議長を助け、議長に事故あるときは、その職務を行う。

第五条 会議は、議長が招集する。

第六条 会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。

2 会議の議決は、出席者の過半数で決める。

第七条 会議開催の場所及び日時は、会議に付議すべき事件とともに、議長が、あらかじめこれを通知しなければならない。

第八条 招集は、開会の日前、七日までに、これを通知しなければならない。ただし、急を要する場合はこの限りでない。

第九条 会議は、定例会及び臨時会とする。

第十条 定例会は、年三回以上これを招集しなければならない。

第十一条 臨時会は、必要がある場合においてその事件に限りこれを招集する。

第十二条 会議招集の通知後に急を要する事件があるときは、第七条の規定にかかわらず、直ちに、これを会議に付議することができる。

第十三条 関係職員は、会議に出席して意見をのべることができる。

第十四条 この規定に定めるもののほか、会議に必要な事項は別にこれを定める。

第十五条 会議に関する庶務は千葉県立中央図書館で行う。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（昭和六十二年四月一日教育委員会規則第二号）

この規則は、公布の日から施行する。

Ⅱ 令和 3 年度事業報告

【概 況】

県立図書館は運営方針に基づき、3館の密接な連携により、市町村立図書館等への援助、県内の中核的調査研究図書館としての情報・資料の提供、図書館未設置市町村の読書施設に対する資料援助や運営相談及び職員研修、高等学校・大学及び類縁機関等との連携など幅広い図書館活動を行った。

引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じながら、各事業を実施した。

また、来館しにくい県民や災害等により一時的に図書館を利用しにくくなる県民への対応として、郵送による資料貸出券交付申込みを開始した。さらに、災害等の状況に応じて、個人貸出冊数や貸出期間の制限緩和を行えるようにした。

東部図書館においては、東部図書館の一部を使用する旭市図書館の開館準備のため、7月7日（水）から9日（金）まで臨時休館し、7月10日（土）東部図書館内に旭市図書館が移転開館した。

図書館事業概要

項目		館名	中央図書館	西部図書館	東部図書館	合 計
資料整備	資料総数	受入冊数	7,606 冊	4,878 冊	3,089 冊	15,573 冊
		(内購入冊数)	(4,656 冊)	(4,186冊)	(2,458 冊)	(11,300 冊)
		購入費	21,500 千円	19,315 千円	11,185千円	52,000 千円
	蔵書数	871,461 冊	290,636 冊	296,800 冊	1,458,897 冊	
	新聞・雑誌・法規集	75紙・3,766誌・3種	37紙・543誌・0種	22紙・256誌・0種	133紙・4,537誌・3種	
サービス業務	利用状況	入館者数	43,814 人	87,781 人	97,839 人	229,434 人
		登録者数	13,603 人	14,631 人	7,793 人	36,027 人
		個人貸出	55,714 冊	50,557 冊	22,718 冊	128,989 冊
	資料複製サービス	92,366 枚	31,684 枚	7,881 枚	131,931 枚	
	参考調査 照会・質問	7,077 件	3,601 件	6,239 件	16,917 件	
奨励	県立図書館蔵書貸出冊数	42,108 冊	19,914 冊	29,968 冊	91,990 冊	
	市町村立図書館等蔵書の相互貸借冊数	54,215 冊	40,137 冊	15,785 冊	110,137 冊	
管内人口(令和4年4月1日)						6,267,579 人

《備考》 蔵書数にはマイクロ資料、視聴覚資料を含む。

【業務内容】

第1 県内図書館の中核としての役割

1 市町村の読書環境充実のための支援

(1) 資料搬送ネットワークの維持・改善(図書館協力業務)

「読書県らば」を目指し、市町村立図書館及び図書館未設置市町村公民館図書室等に対して、相互貸借資料の搬送や運営相談、協力レファレンス等の援助を行った。また、高等学校・大学及び類縁機関等と連携し、読書活動の充実に努めた。

ア 資料の図書館間貸出し

市町村立図書館及び図書館未設置市町村公民館図書室等の求めに応じて、資料の図書館間貸出しを行った。

イ 図書館連絡車・協力車巡回

業者委託により県立図書館3館の間で連絡車を巡回させ、県内の全ての市町村立図書館等に対して週1回定期的に協力車を巡回し、県立図書館及び市町村立図書館等の相互貸借資料を搬送した。

ウ 協力レファレンス

市町村立図書館等からの所蔵調査・資料調査・事項調査等の調査・相談等に対し、データベースや図書館資料を使って支援を行った。

エ 図書館未設置市町村支援

図書館未設置市町村の公民館図書室など読書施設に対し、資料の貸出しや協力レファレンス、教科書単元・テーマ別資料リスト・図書見本の紹介〈中央〉、運営相談等の支援を行った。訪問時に教科書単元・テーマ別資料リストの他に、小・中学校教科指導で使える資料リスト（「千葉県の民話」「千葉県にゆかりのある人物」）を持参し、自治体の小・中学校等への周知を依頼するなど広報活動をしたこともあり、コロナ禍においても、小・中学校からは917冊の依頼があった。

オ 担当者会議の開催

市町村立図書館等の相互協力担当職員を対象に、相互協力業務の確認や情報交換を行い、相互協力の円滑な推進を図るための会議を開催した。

- ・中央図書館（市町村立図書館相互協力担当者会議 4月21日（水）25人出席）
- ・西部図書館（管内市立図書館相互協力担当者会議 5月13日（木）14人出席）
- ・東部図書館（市町村立図書館等相互協力担当者会議 4月28日（水）18人出席）

カ その他

県立図書館ホームページの「図書館員のページ」に、研修の内容や資料をその都度掲載し、不参加であっても研修内容等を確認できるようにした。

（2）図書館等運営相談

全市町村を訪問し、各図書館の課題等について運営相談を行った。図書館の管理・運営やサービスに関する質問を市町村立図書館等から受け付けるとともに、定期的に施設訪問し、図書館運営相談等に応じた。

- ・中央図書館（電話やメールでの相談：59回、奉仕対象30市町村へ延べ32回の訪問運営相談を実施した。※年1回、希望のあった館について2回。）
- ・西部図書館（電話やメールでの相談：26回、11市の中心館に対し各1回、訪問運営相談を実施した。）
- ・東部図書館（電話やメールでの相談：25回、13市町の図書館及び公民館図書室等18施設に対し、延べ35回の訪問運営相談を実施した。）

（3）その他

ア 新聞・雑誌総合目録の整備

千葉県公共図書館協会加盟の市町村立図書館等や、文書館行政資料室、県立保健医療大学図書館、さわやかちば県民プラザで所蔵する新聞や雑誌の総合目録を更新してホームページ上で公開した。

イ 県内図書館の災害等による休館・サービス状況の公開

新型コロナウイルス感染症による市町村立図書館等の休館・サービス状況について、調査し、ホームページで公開した。

ウ 読書活動支援

県内の読書活動を推進するため、市町村立図書館等と連携し、読書グループ関係団体への支援協力を行った。また、千葉県読書グループ連絡会に協力して、千葉県読書グループ研修会の開催を支援した。さらに、読書会用テキストとして、同一タイトル10冊をセットにした十冊文庫を整備した（総タイトル数713）。

エ 資料の巡回展示〈東部〉

東部図書館で実施した資料展示の資料を中心に、希望するテーマの資料を一括して市町村立図書館、公民館図書室、学校図書館等に貸出し資料展示をしてもらう巡回展示を、9施設に22回実施した。

2 図書館職員の研修センター

(1) 職員の資質向上

県立図書館職員の資質向上を目的に館内研修を計画的に実施するとともに、国立教育政策研究所主催の図書館司書専門講座を始めとした外部研修会等への職員派遣を積極的に行った。

(2) 研修業務

市町村立図書館職員等の資質向上を図るため各種の研修会を実施し、市町村立図書館等への援助機能の充実に努めた(延べ 24回開催、653人参加)。各研修時のアンケート結果を分析し、課題を集約した。また、運営支援の一環として、全ての県内図書館等読書施設の職員が、図書館サービス向上のための研修を受けられるよう、千葉県公共図書館協会と連携した研修プログラムの開発に積極的に取り組んでいる。

令和3年度の各研修は感染拡大防止策を講じた上で開催し、一部研修ではオンライン等による遠隔開催や分散開催、定員縮小による開催とした。

【中央図書館】

事業名	実施日等	実施状況	参加人数
公共図書館新任職員研修会	5月12日(水)	「公共図書館の役割、利用サービス、障害者サービス、レファレンスサービス、児童サービス及び相互協力業務等」 講師 当館職員 会場 県文化会館	32人
公共図書館中堅職員研修会	10月6日(水)	「図書館サービスと著作権」 講師 さいたま市立武蔵浦和図書館 館長補佐 長谷川清氏 会場 県文化会館	40人
図書館長研究協議会	11月11日(木)	講演「読書バリアフリー法と公共図書館」 講師 専修大学文学部教授 野口武悟氏 報告「新県立図書館等複合施設整備事業について」 「千葉県読書バリアフリー推進計画の検討状況について」 報告者 生涯学習課職員 ※オンライン開催 (Zoom・YouTube併用)	53人
児童サービス基礎研修会 全5回	6月16日(水)	第1回 「児童奉仕概論」 講師 佐倉市立佐倉図書館 小廣早苗氏 会場 オンライン開催	43人
	7月1日(木)	第2回 「おはなし会の運営について」 講師 当館職員 「ノンフィクションの選書について」 講師 山武市成東図書館 豊山希巳江氏 会場 オンライン開催	44人
	7月14日(水)	第3回 「絵本・物語について」 講師 船橋市西図書館 伊藤恵子氏 会場 オンライン開催	43人
	9月10日(金) 午前	第4回 「レファレンスサービスについて」 講師 当館職員 会場 オンライン開催	43人
	9月10日(金) 午後	第5回 講演「中高生の読書を創る」 講師 成蹊大学文学部日本文学科准教授 大橋 崇行氏 事例発表 県内市町村立図書館の代表者によるYAサービスの事例発表 会場 オンライン開催	69人

地域行政資料研修会	10月15日(金) 12月16日(木)	第1回 「地域行政資料の探し方入門」 「菜の花ライブラリーの解説」 「地域行政資料の探し方 ひとり一問一答」 講師 当館職員 第2回 講義 「千葉氏に関する基礎講座 『千葉氏入門Q&A』より」 講師 千葉市立郷土博物館 総括主任研究員 外山信司氏 見学 千葉市立郷土博物館 千葉市立郷土博物館 主査 錦織和彦氏 会場 県立中央図書館、 千葉市立郷土博物館 ※オンライン同時開催	19人 19人 (会場8人 オンライン11人)
レファレンス研修会 (レファレンスサービス基礎研修)	6月18日(金) 7月6日(火) 7月15日(木)	「レファレンスサービス実践の基礎」 「インターネットを活用した調べ方」 「レファレンス演習/参考図書及びインターネット情報源解題」 講師 当館職員 ※分散開催：3日とも同内容で実施	39人 (各日11～17名の計)
レファレンス研修会 (レファレンスサービス専門研修)	12月8日(水)	講義 「パスファインダーを作るには」 講師 文化学園大学現代文化学部・国際文化学部教授 吉田昭子氏 会場 県立西部図書館	16人
課題解決支援サービス研修会	11月25日(木)	講義 「利用者対応に必須の法情報とリサーチの基礎」 講師 中央大学図書館、大東文化大学法学部 非常勤講師 鈴木敦氏 会場 県文化会館	14人

【西部図書館】

事業名	実施日等	実施状況	参加人数
公共図書館新任職員研修会	5月28日(金)	「公共図書館の役割、利用サービス、レファレンスサービス、児童サービス及び相互協力業務等」講師 当館職員 ※オンライン同時開催	32人 (会場15人 オンライン17人)
障害者サービス研修会 全2回	6月24日(木) 6月30日(水)	第1回 障害者サービスを始めるための基礎の基礎 講師 当館職員 ア 講義 「公共図書館の障害者サービスの理念・各サービスの紹介と具体的実施方法」 イ 演習 「障害者サービス用資料について・サピエ図書館体験」 ウ 基本的な手話の体験・質疑応答・情報交換・館内自由見学 ※オンライン同時開催 第2回 ア 講義 「アメリカの読書事情」 講師 ワシントン州在住弱視当事者 田中恵氏 イ 情報交換会・質疑応答 ※オンライン同時開催	23人 19人
課題解決支援サービス研修会	11月17日(水)	第1回 講演 「インフォデミック下において信頼できる医療・健康情報を提供するために」	15人

		演習「医療ニュース評価ワークショップ」 講師 司書・ヘルスサイエンス情報専門員 跡見学園女子大学図書館司書課程講師 佐藤正恵氏 ※オンライン開催	
	1月21日(金)	第2回 講演「医療情報の探索方法」 実習「データベースによる医療情報探索 の実践」 講師 同上 ※オンライン同時開催	23人 (会場7人 オンライン16人)

【東部図書館】

事業名	実施日等	実施状況	参加人数
公共図書館新任職員研修会	5月19日(水)	「公共図書館の役割、利用サービス、レファレンスサービス、児童サービス及び相互協力業務等」 講師 当館職員	13人
学校図書館運営研修会	8月6日(金)	「読書活動『ライぶらり』の紹介、『POPづくりのコツ』研修、担当者情報交換会」 講師 当館職員	12名
課題解決支援サービス研修会	12月9日(木)	「電子図書館・電子資料の基礎を知る～コロナ禍における非来館型サービスとして～」 講師 帝京平成大学現代ライフ学部 准教授 間部豊氏	25人
千葉経済大学短期大学部と千葉県立東部図書館との連携研修会	1月28日(金)	「インターネット時代の資料検索について」 講師 千葉経済大学短期大学部 非常勤講師 堀越洋一郎氏	17人

第2 子どもの読書活動の推進

1 子どもの読書活動の推進拠点

(1) 子どもの読書活動推進センター機能の充実

読み聞かせボランティア入門講座を九十九里町と我孫子市で開催、読み聞かせ講座をさわやかちば県民プラザと共催でオンラインにて開催した。また、県教育委員会主催の「千葉県子ども読書の集い」、「学校図書館・公立図書館連携研修会」に参加するなど、関係機関・団体等との連携推進を図り、子どもの読書活動推進センター機能の充実に努めた。

(2) 来館者サービス

資料の貸出し、子どもからの調査相談、読書相談及び児童資料・子どもの読書活動に関する大人からの調査相談のほか、定例おはなし会や冬のおはなし会を開催した。また、「子育て支援情報コーナー」の資料や情報の充実を図った。子育てに関する新着図書案内を作成し、館内で配布した。また、生涯学習課や子育て支援課と連携し、子育てに関するパンフレット等の収集、提供を進めた。(中央)

(3) 市町村立図書館等への支援

市町村立図書館等への資料の貸出しや調査相談、運営相談を行った。

「児童サービス基礎研修会」を開催し、市町村立図書館等の児童サービス担当職員の養成に努めた。(中央)

県立東部図書館内に開館の旭市図書館で行われる「おはなし会」の運営に協力した。(東部)

(4) 読み聞かせボランティアの養成

「読み聞かせボランティア入門講座」を開催するとともに、学校図書館が実施する子どもの本の読み聞かせボランティアを養成する講座等に講師として職員を派遣した。〈中央〉

(5) 出張おはなし会

例年、博物館等関係機関で開催するイベント等に協力し、職員が出向いて、おはなし会や読み聞かせを行っているが、新型コロナウイルスの影響で見合わせた。〈中央〉

(6) ヤング・アダルトサービスの実施

県立図書館ホームページ内のヤング・アダルトサービスのページの充実に努めたほか、Twitterで中高生向けのおすすめ本を紹介した。〈中央〉

(7) 障害者用資料の製作

児童資料の点訳絵本等を製作した。〈中央〉

(8) 広報・啓発業務

県教育委員会主催の「千葉県子ども読書の集い」への出展、「学校図書館・公立図書館連携研修会」での広報・事業説明、「子どもの読書活動推進センター通信」の創刊を行った。〈中央〉

2 学校図書館への支援

(1) 高等学校・特別支援学校向け貸出用資料の整備

「高等学校・特別支援学校用セット」を令和3年度は新規・改訂10セット、202冊を整備した。総セット数134セット、総冊数3,792冊

県立図書館の学校支援事業を周知し、活用を促すために、学校図書館関係者や教職員の研修会等で事業説明や資料配付を行った。

(2) 資料の貸出し・運営相談等

県内の高等学校・特別支援学校等と連携し、資料提供や協力レファレンス、研修等を行った。

資料搬送方法：協力車（西部・東部）、宅配便（中央・西部（協力車未巡回校））

また、高等学校を対象に運営相談を行った。（特別支援学校については（3）に別掲）

- ・西部図書館（奉仕対象地域内の高校1校へ訪問）
- ・東部図書館（奉仕対象地域内の高校21校に延べ24回の訪問運営相談を実施）

【中央図書館】

ア 宅配便による資料搬送 登録校 80校

中央図書館の利用未登録高校・特別支援学校へ広報活動を行い3校が新規登録した。要望の多い貸出セットや改訂が必要なセットについて調査検討を進めた。

イ 高等学校への講師派遣

保育等への進路を希望する生徒や図書委員会活動への支援のため、高等学校等へ絵本の読み聞かせについての講師として職員を派遣した。

（延べ8校 派遣先：市原高、市原八幡高、柏井高、犢橋高、千葉商業高、千葉女子高、松戸六実高、若松高）

ウ 小・中学校図書館との連携・支援

小中学校図書館には市町村立図書館等を通しての資料貸出しを行った。また、学習でも使える「千葉県の民話リスト」「千葉県にゆかりのある人物リスト」について、広く活用してもらえるよう、運営相談等で広報を行った。

中学校の教科書単元・テーマ別資料リストを作成するとともに、運営相談時に市町村読書施設等へ紹介した。

【西部図書館】

ア 協力車巡回による資料搬送 登録校40校

イ 宅配（ゆうパック）による資料搬送（管内協力車未巡回校対象）登録校31校

ウ 奉仕対象地域内の利用未登録高校・特別支援学校へ文書による事業説明、勧誘を行った。

【東部図書館】

ア 協力車巡回による資料搬送 全27校中23校

イ 小・中学校図書館との連携・支援

2回開催された海匝地区指導行政連絡会議に出席し、県立図書館の学校支援について説明した。

ウ 学校図書館運営研修会を実施し、学校図書館担当者の資質向上を図るとともに担当者同士の情報交換を実施した。

(3) 特別支援学校への読書支援

希望のあった学校に対し、おはなし会や運営相談等を行った。

- ・中央図書館（奉仕対象地域内の7校に読み聞かせ、2校に運営相談を実施）
- ・西部図書館（奉仕対象地域内の7校に読み聞かせ等、1校に運営相談を実施）
- ・東部図書館（奉仕対象地域内の3校に読み聞かせ、延べ8校に運営相談を実施）

また、感染症拡大防止のため訪問を中止した学校へは、絵本の貸出しや利用促進のための案内の送付を行った。

(4) ホームページでの学校向け情報発信

「学校の先生方へ」ページについて、高等学校・特別支援学校用セット一覧の更新、教科書単元・テーマ別資料リスト3件の追加を行った。

また、「子どもの読書活動推進センター」ページに、創刊した「子どもの読書活動推進センター通信」や図書館活用出前授業についての情報を掲載した。

第3 課題解決支援図書館機能の充実

1 調査研究に役立つ資料の収集と情報の提供

(1) 県立全館の資料整備

県民の調査研究活動を支援し、市町村立図書館等及び高等学校等への協力・援助を行うため、3館が連携・分担して収集、整備した。

なお、電子書籍については、電子出版制作・流通協議会の発表などを参考としながら、動向調査を進めた。

資料整備実績

区分	中央図書館	西部図書館	東部図書館	合計
購入図書資料	4,656 冊	4,186 冊	2,458 冊	11,300 冊
寄贈図書資料	2,950 冊	692 冊	631 冊	4,273 冊
千葉県関係資料	1,930 冊	392 冊	299 冊	2,621 冊
逐次刊行物（購入）	147 タイトル	287 タイトル	195 タイトル	629 タイトル

(2) 資料の保管

収集資料を継続的・効率的に維持保存・利用するために、蔵書点検（2月1日～2月10日）を行った。

(3) 市町村立図書館等除籍資料の保存

県内の最終的な保存図書館として、市町村立図書館等の除籍資料を収集した。

区分	中央図書館	西部図書館	東部図書館	合計
図 書	7 冊	0 冊	141 冊	148 冊
雑 誌	120 冊	629 冊	0 冊	749 冊

(4) 電算業務

・業務系システム

県立図書館の電算システムは、昭和59年度から開発した独自システムを西部図書館開館時

(昭和62年)に導入したのが最初である。平成8年度には同システムの改良版を中央図書館に、また、平成10年度に開館した東部図書館にも導入することにより、3館独自の電算システム運用体制が整備された。その後、平成19年から、3館のシステムを統合した「千葉県立図書館統合電算システム」に移行し、中央図書館が管理・運用を行っていた。平成24年11月、電算システムを一新(契約:NECキャピタルソリューション開発:日本電気株式会社)し、更に機能を充実させた「千葉県立図書館情報システム」を導入し、現在は2期目となっている。

《電算システムの概要》

館名	現行システム(平成29年11月更新)				電算システムの導入時期	
	機器名	基本ソフト名	端末機器(台)(※3)			
			業務用	利用者用		
中央			41	20	平成8年	
西部	日本電気(株)	Express 5800	LiCS-Web II	32	26	昭和62年
東部		(※1)		27	23	平成8年(※2)

(※1) 本体は外部に設置している (※2) 東部図書館は開館準備時から導入
(※3) 他に研修用21台、予備5台

・インターネット系システム

平成13年から導入した図書館ホームページでは、所蔵資料の検索・予約、県内図書館横断検索(55機関、73コンテンツ)、メールレファレンスの受付などのほか、図書館からの様々な情報発信を行っている。(ホームページへのアクセス件数 361,949件)

《横断検索参加自治体及び施設一覧》

(令和4年3月末現在)

自治体 (35市6町1村)	[中央エリア] 千葉市、市原市、習志野市、八千代市、佐倉市、成田市、四街道市、八街市、富里市、茂原市、勝浦市、館山市、鴨川市、南房総市、木更津市、君津市、袖ヶ浦市、酒々井町、大多喜町、長生村、睦沢町、栄町
	[西部エリア] 市川市、船橋市、浦安市、松戸市、柏市、野田市、流山市、我孫子市、鎌ヶ谷市、印西市、白井市
	[東部エリア] 銚子市、香取市、匝瑳市、旭市、東金市、山武市、大網白里市、横芝光町、多古町
大学(4)	千葉大学附属図書館、千葉科学大学図書館、城西国際大学水田記念図書館、放送大学附属図書館
専門(2)	アジア経済研究所図書館、財団法人成田山仏教図書館
県類縁施設(3)	千葉県文書館、千葉県総合教育センター、千葉県立博物館
その他(4)	国立国会図書館、国立情報学研究所、科学技術振興機構、日本出版インフラセンター

・その他システム

平成24年度から3館で公衆無線LANサービスを導入している。

2 調査研究や政策形成の支援

(1) 調査相談業務（レファレンスサービス）

ア 調査回答

図書及び新聞・雑誌、マイクロ資料等の所蔵資料、インターネット情報源、データベース等を活用し、口頭や電話、メール、文書等による個人や市町村立図書館等からの調査相談に対する確に回答した。

イ パスファインダー（調べ案内）、ブックリスト等の作成

県民ニーズを把握し、県民が関心を持つテーマに関する調べ方を紹介するパスファインダーを作成した（改訂6件）。

また、時事問題等に関する新たな情報提供サービスを開始し、「図書館から世界（ニュース）が見える」を12号発行した。

中央図書館では、「身のまわりにある なぜ？ふしぎ！をさぐる本」「読んで考えるSDGs 未来を変えるためのヒントがここに！」など児童書関連の展示リスト4件、教科書単元・テーマ別資料リスト3件を作成した。

西部図書館では、「「認知症」について考える」「千葉県の「食」（ちばの食育月間）」「千葉県ゆかりの文学作品」の展示リストを3件作成し、「新型コロナウイルス感染症（関連リンク集）」を更新して提供した。

東部図書館では、「伊能図完成200年」「オリンピック・パラリンピック」など時宜に合った展示を定期的に行うとともに、ブックリストを作成、提供した。

〈調べ案内(パスファインダー) 令和3年度作成・改訂一覧〉

テ ィ マ	作 成 館
初心者のための法令の調べ方（改訂）	中央図書館
初心者のための判例の調べ方（改訂）	〃
千葉県の「人物」を調べる（改訂）	〃
『発達障害』について調べる（改訂）	西部図書館
診療ガイドラインを探す(改訂)	〃
認知症について調べる(改訂)	東部図書館

〈図書館から世界（ニュース）が見える 令和3年度作成一覧〉

テ ィ マ	作 成 館
オープンデータ	中央図書館
探究学習	〃
地方移住	〃
選択的夫婦別姓	〃
子どものワクチン接種	〃
フードテック	〃
女性の貧困	〃
ヤングケアラー	西部図書館
空き家問題	〃
サーキュラーエコノミー	東部図書館
男性の育児休業	〃
6次産業化	〃

ウ レファレンス事例の公開

調査回答事例の中から公開用事例として78件を国立国会図書館レファレンス協同データベースに提供し、県民がホームページで閲覧できるよう登録した。

エ 国立国会図書館の提供する「図書館向けデジタル化資料送信サービス」の利用

「図書館向けデジタル化資料送信サービス」が調査研究に活用されるよう県民への広報を行うとともに、資料の提供、複写サービスを行った。

オ データベースの利用促進

データベースの利用を促進するため、利用者向けのデータベース活用講座を開催した。

カ 課題解決支援の取組と講座の開催

中央図書館では、「くらしに役立つ法律・判例情報コーナー」の法律・判例関係資料の充実、関連情報の提供に努めた。西部図書館では、医療・健康情報の振り返りプロジェクトにより、令和3年度は図書館員向けの医療・健康情報の提供やデータベース活用等に関する研修会を開催するとともに、利用状況やニーズを知るための利用者アンケート調査を実施した。東部図書館では、シニアの暮らしに役立つ資料の充実、関連情報の提供に努めた。

また、中央図書館では、県民向けの課題解決支援講座「くらしに役立つ法律・判例情報講座」（1回）や「データベース活用講座」（2回）を開催した。

〈課題解決支援講座（一般向け）〉

事業名	実施日等	実施状況	参加人数
【中央図書館】 くらしに役立つ法律・判例情報講座	11月21日(日)	講演「不動産トラブルの解決に役立つ！契約不適合責任ルール」 講師 法テラス千葉法律事務所 弁護士 佐藤隆信氏 会場 千葉市生涯学習センター	13人
【中央図書館】 データベース活用講座	6月19日(土)	講義・実習 「菜の花ライブラリー活用講座」 講師 当館職員	6人
	10月21日(木)	講義・実習 「朝日新聞記事データベース「聞蔵Ⅱビジュアル」の効果的な検索法について」 講師 朝日新聞社 データベース事業部 DBサポート 汲田和久氏	オンライン 9人

(2) 閲覧業務

ア 資料の館内利用・貸出し

図書及び新聞・雑誌、マイクロ資料等所蔵資料や、県内外の他の公共図書館及び国立国会図書館、大学図書館等からの相互貸借により、資料の提供や貸出し、複写サービスを行った。

イ 図書館への来館が困難な利用者に対する情報提供

自宅への図書の直接貸出を希望する県民（資料貸出券の発行を受けている方）に対して、郵送（送料自己負担）による図書（一部の資料を除く）の貸出し、返却サービスを平成30年9月から行っている。令和3年度は34件48冊の利用があった。

また、来館しにくい県民や災害等により一時的に図書館を利用しにくくなる県民への対応として、郵送による資料貸出券交付申込みを実施し、令和3年度は33件の利用があった。

ウ 資料の展示

所蔵資料の特長を活かしたテーマを設定し、県民に広く周知するために、各館展示コーナー等を利用し、定期的に資料展示を行っている。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中央図書館千葉県資料室、新聞雑誌室及び一般資料室においては資料展示を休止し、西部図書館においては規模を縮小し、Twitterやホームページ上での資料紹介に連動したミニ展示を行っている。（中央図書館児童資料室及び東部図書館は従前どおり実施している。）

〈資料展示（展示コーナー等による資料の紹介）〉

【中央図書館】

展示場所	展 示 名	期 間
児童資料室	身のまわりにある なぜ?ふしぎ!をさぐる本	4月23日(金)～6月17日(木)
	読んで考えるSDGs 未来を変えるためのヒントがここに!	7月22日(木)～9月17日(金)
	美術・芸術にふれる秋	9月18日(土)～11月18日(木)
	ありがとう 松岡享子さん	2月11日(金)～4月15日(金)

※児童資料室にて「部分月食に関する本」「本で社会科見学」等のミニ展示を通年で48回実施。

【西部図書館】

展示場所	展 示 名	期 間
閲覧室	「認知症」について考える	9月1日(水)～9月30日(木)
	千葉県の「食」(ちばの食育月間)	11月2日(火)～11月28日(日)
	ウクライナ～県立図書館の蔵書から	3月8日(火)～4月14日(木)
	千葉県ゆかりの文学作品	3月19日(土)～4月14日(木)

【東部図書館】

展示場所	展 示 名	期 間
展示 コーナー	伊能図完成200年	4月17日(土)～6月30日(水)
	オリンピック・パラリンピック	7月1日(木)～9月16日(木)
	バラのすべて	9月17日(金)～11月18日(木)
	障害者週間	11月20日(土)～1月30日(日)
	震災と千葉県	2月11日(金)～4月14日(木)
資料紹介 コーナー	仕事の本	4月17日(土)～6月30日(水)
	地域を知ろう～椿海、利根川を中心に～	7月1日(木)～8月31日(火)
	シニアが活躍する本	9月1日(水)～10月14日(木)
	ノーベル文学賞受賞作家	10月16日(土)～12月16日(木)
	北条義時と周りの人々	12月18日(土)～1月30日(日)
	災害を考えよう	2月11日(金)～4月14日(木)

※カウンター前にて「ようこそ☆さわる本の世界へ」「鳥獣戯画と日本の絵画」等のミニ展示を、また、「はつらつライフなび(シニア支援コーナー)」では、「夏に食べたい料理」「アルツハイマー月間」等のミニ展示を、併せて通年で14回実施。

(3) 各種講座の開催

各種講座を実施し、県民の学習機会の拡充に努めた。

【中央図書館】

県民の読書活動の推進や課題解決を支援するため各種事業を実施した。
(令和3年度実施事業)

事業名	実施日等	実 施 状 況	参加人数
定例おはなし会	毎週土曜日 午後	全15回 語り手 当館職員 ※11月以降実施	延べ54人
親子で楽しむえほんの会	毎月第2 金曜日	語り手 当館職員 ※11月以降実施	2人
読み聞かせボランティア入門講座	5月30日(日)	「絵本の読み聞かせー選び方と読み方の実践ー」 講師 にんじん文庫・主宰 入交静氏 会場 九十九里町立中央公民館	9人
	10月23日(土)	「絵本の読み聞かせー選び方と読み方の実践ー」 講師 ゆか下文庫・主宰 小谷孝子氏 ゆか下文庫 東ひろみ氏	27人

		会場 我孫子市生涯学習センター 「アビスタ」2階ミニホール	
読み聞かせ講座 (教職員向け・県民向け)	8月4日(水)	「読み聞かせにおける、絵本の選び方と読み方について」 講師 当館職員 〔さわやかちば県民プラザ共催〕 会場 オンライン開催	5人
冬のおはなし会	12月19日(日)	語り手 当館職員	23人
くらしに役立つ法律・判例情報講座		前掲	
データベース活用講座		前掲	
読書支援機器活用講座	8月19日(木)	第1回「DAISYって何?～3種類のDAISYの機能と特徴」 講師 公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会 吉広賢史氏	8人
	10月29日(金)	第2回「DAISYを再生する～専用再生機とアプリの使い方」 講師 シナノケンシ株式会社 伊藤春樹氏、柳澤健氏	6人
	10月29日(金)	第3回「アクセシブルな電子資料～国立国会図書館視覚障害者等用データを利用する」 講師 国立国会図書館 杉田正幸氏	7人
サピエ図書館活用講座	12月14日(火)	「視覚障害者情報ネットワーク「サピエ図書館」活用入門」 講師 株式会社ラビット 荒川明宏氏 会場 オンライン開催	25人
図書館音訳者養成講座	12月21日(火) 1月18日(火)	「伝わる音訳を考える」 講師 音訳指導者 川上正信氏	延べ15人

【西部図書館】

県民生活上の課題解決を支援するため、各種事業を実施するとともに、当館の特色（自然科学・工学）を生かした「サイエンス・カフェ」を開催した。

障害者サービスについては、「障害者のための資料デジタル化講座」等を開催し、読書相談など幅広い情報提供に努めた。

〈令和3年度実施事業〉

事業名	実施日等	実施状況	参加人数
障害者のための資料デジタル化講座	6月2日(水)	講演「国立国会図書館のテキストデータ化の取組みと今後の展望について」 講師 国立国会図書館関西館 安藤一博氏 事例報告1「アクセシブルな電子書籍製作実験プロジェクト みんなでダイジーについて」 講師 日本点字図書館 山口里恵氏 事例報告2「読書支援サービスYourEyesの概要とボランティアツールの使用方法について」 講師 株式会社ポニーキャニオン 黒澤格氏 ※オンライン同時開催	25人
サイエンス・カフェ	10月30日(土)	「ところ変われば備えも変わる あなたの街と自然災害」 講師 千葉県立中央博物館 八木令子氏	17人

図書館音訳者養成講座 (初級)	11月12日(金) 11月13日(土)	講演「DAISY編集初心者講習」 講師 DAISY TOKYO 森田聡子氏ほか講習スタッフ5名	延べ18人
図書館音訳者養成講座 (中級)	10月27日(水) 10月28日(木)	講演・演習「視覚情報の音声化」 講師 元静岡県点字図書館副館長 熊谷成子氏 ※オンライン同時開催	延べ32人
障害者のための読書支援機器活用講座	1月26日(水)	講演「音声と振動で道案内するアプリ「ナビレコ」について」 講師 株式会社アメディア 望月優氏 講演「振動する靴挿入デバイスで道案内する『Ashirase』について」 講師 株式会社Ashirase 千野歩氏 事例発表「オンラインによる遠隔対面朗読の試行について」 当館職員 ※オンライン同時開催	25人

【東部図書館】

県民の読書活動推進のため「歴史講座」を開催した。

障害者サービスについては、音訳者の意義と役割について基礎的な知識を習得するために「図書館音訳者養成講座」を開催した。また、「読書支援機器活用講座」を試行した。

〈令和3年度実施事業〉

事業名	実施日等	実施状況	参加人数
図書館音訳者養成講座	12月10日(金) 12月16日(木)	「文意を伝える音訳の実践」全2回 講師 NPO法人点訳・音声訳集団一步の 会所属 音訳指導者 高橋久美子氏	延べ16人
歴史講座	11月26日(金)	「伊能忠敬の房総測量」 講師 千葉県文書館職員 實形裕介氏	29人
読書支援機器活用講座	1月26日(水)	「読みやすい大きさの文字で、読んだり、書いたり！」 講師 株式会社システムギアビジョン 白瀧仁氏	7人

(4) 県庁各課等への情報提供

県民生活の維持向上等に係る施策を企画・立案している県庁各課等へ、業務で必要な資料の貸出しや調べものの支援として情報提供サービスを行った（貸出冊数：1,960冊）。

また、県出先機関への郵送サービスを行った（貸出冊数：230冊）。

第4 千葉県に関する資料や情報の蓄積、継承

1 千葉県関係資料の計画的な収集整備、保存

(1) 資料の計画的な収集

千葉県関係資料の網羅的・系統的な収集に努めるとともに、文書館などの関係機関と連携し、官公庁など関係部署へ寄贈依頼を定期的に行った。また、出版情報を新聞記事等により把握し幅

広く収集するとともに、インターネット情報を含む地域行政資料の収集・保存に努めた。

・千葉県資料受入数 購入287 寄贈2,334 合計2,621冊

(2) チラシ等の作成・配布、研修会の開催と広報

千葉県に関するパスファインダー（調べ方案内）、千葉県資料のテーマ別資料リスト、菜の花ライブラリーの使用方法の印刷物を作成・配布した。また県内公共図書館等職員を対象に、地域行政資料に関する知識を深め、日常のレファレンス業務や資料の保存・提供の充実を図るため、研修会を実施した。

(3) 県内における大規模災害の関連資料及び防災関連資料・情報の収集

県民の課題解決支援の一環として、東日本大震災や、千葉県における房総半島台風、新型コロナウイルス感染症、鳥インフルエンザ等、県内に甚大な被害をもたらした災害に関する資料や、ハザードマップ等の防災に関連する資料・情報を適宜収集、整理、保存するとともに、資料の提供や図書館ホームページによる情報提供に取り組んだ。

2 千葉県関係資料の情報発信の推進

(1) 千葉県関係の情報検索ツールの充実

国立国会図書館レファレンス協同データベースへのデータ提供、千葉県関係の新聞・雑誌記事索引、歴史関係雑誌記事索引、千葉県に関する調べ方案内（パスファインダー）、千葉県資料のテーマ別資料リスト等の情報検索ツールを作成し、レファレンスサービスの充実に努めた。

・千葉県関係として国立国会図書館レファレンス協同データベース27件、パスファインダー1件、テーマ別リスト10件、「図書館から世界（ニュース）が見える」1件を追加した。

(2) 貴重資料保存のためのデジタル化

「千葉県町村合併史々料」や「和漢洋図書分類表」など明治時代以降の洋装本をデジタル化した。菜の花ライブラリーで公開し、インターネットを通じて閲覧できるようにした。

(3) 菜の花ライブラリー活用講座の実施

県民が千葉県についての情報を効率的に幅広く入手し、千葉県への理解を深めるために、ホームページで公開している千葉県関係データベース「菜の花ライブラリー」の利用方法を学ぶ機会として菜の花ライブラリー活用講座を実施した。

第5 知の創造と循環を生み出す公共の場

1 博物館など関係機関との連携

博物館や文書館、さわやかちば県民プラザ等と連携して、展示、講座、資料貸出し、文献リストの作成等を実施した。

関係機関が実施する講座等へ、職員を講師等として派遣した。

【中央図書館】

- ・さわやかちば県民プラザとの連携（読み聞かせ講座〈オンライン開催、5人〉）
- ・法テラス千葉法律事務所との連携（「くらしに役立つ法律・判例情報講座」〈13人〉）
- ・中央博物館との連携（展示「バラのすべて」関連トークイベントの開催〈会場44人、オンライン51人〉、ブックリストの作成）
- ・千葉県学校図書館協議会、千葉県教育研究会学校図書館教育部会及び千葉県高等学校教育研究会学校図書館部会との連携（「第32回読書感想画中央コンクール」千葉県入賞作品の展示会）

【西部図書館】

- ・健康福祉部高齢者福祉課との連携（「認知症」理解普及月間に合わせた資料展示）
- ・中央博物館との連携（サイエンス・カフェ〈17人〉）
- ・農林水産部安全農業推進課、同流通販売課、千葉県観光物産協会との連携（ちばの食育月間に合わせた資料展示）

【東部図書館】

- ・健康福祉部高齢者福祉課との連携（「認知症」理解普及月間に合わせた資料展示）
- ・千葉県文書館との連携（歴史講座〈29人〉）
- ・中央博物館との連携（展示「バラのすべて」の開催期間に合わせて関連図書を展示）
- ・中央博物館との連携（第2回お浜降りセミナー2021の共催〈24人〉）
- ・東総文化会館との連携（「北総四都市」関連の図書展示・図書リストの配布）
- ・旭いとおか文芸賞「海へ」実行委員会との連携（作品集第5集出版記念会への参加）
- ・日本防災士会との連携（高校生防災講座での講話）

2 すべての県民が利用しやすく快適な社会教育施設

(1) 高齢者・障害者サービス

年齢や障害のために図書館利用が困難な方が資料の提供を受けられるように、各種サービスや研修会を実施し、市町村立図書館等への普及を図った。また、先進事例を調査・研究し、サービスの推進を図るため、中央図書館児童資料室内に点訳絵本やさわる絵本、LLブックなどバリアフリー資料を集めた「りんごの棚」を設置し、手に取りやすい形での資料提供を行っている。

ア 録音図書の貸出し・製作

希望する録音図書を所蔵資料だけでなく、全国の点字図書館や公共図書館より借り受けて提供した。また、所蔵していない場合は、自館で製作し貸出しを行った。

- ・録音図書の貸出タイトル数：11,445
- ・点訳絵本を2タイトル、録音図書を6タイトル製作した。

イ 対面朗読

図書館音訳者が図書館の蔵書や持込みの資料などを朗読する対面朗読については、研修室、会議室等の広い部屋を使用する等の感染症対策を講じながら実施した。

西部図書館では、オンラインによる遠隔対面朗読サービスを試行した。

ウ 活字資料のテキストデータ化〈西部〉

利用者へ迅速に情報提供できるよう、希望する活字資料をテキストデータ化してパソコン等で音声化するサービスを行った（新規15タイトル製作、うち8タイトルを国立国会図書館へ提供）。併せて、作業に従事する図書館音訳者等向けに「障害者のための資料デジタル化講座」を開催した。

また、西部図書館館報「West Library」のテキストデータ版の提供を開始した。

エ 録音図書等のデータ提供

「視覚障害者情報総合ネットワーク（サピエ）」に、所蔵する録音図書等の目録情報を、また、「国立国会図書館視覚障害者等用データ送信サービス」へ、製作した録音図書等のデータを提供し、利用者がインターネットで利用できる環境を整備した。提供したデータの令和3年度の利用数は、4,840件であった。

オ 図書館音訳者の養成

録音図書の製作や対面朗読を行う図書館音訳者を委嘱するとともに、音訳者の資質向上のための講座を開催した。

カ 研修会の開催〈西部〉

市町村立図書館等職員の公共図書館における障害者サービスの向上や、特別支援学校教職員への障害者サービスの啓発を目的に、障害者サービス研修会を開催した。

キ 読書支援機器活用講座の開催

活字による読書の困難な方とその支援者や市町村立図書館職員、特別支援学校教職員等を対象に、拡大読書器や活字を読み上げる機器、デジタル録音図書の再生機器の説明会並びにICTを活用した読書の最新動向の紹介等を実施した。

ク サピエ図書館活用講座の開催〈中央〉

インターネットを活用して、録音図書・点字図書オンラインデータベースを体験する講座

を開催した。

ケ 高齢者サービスの推進〈東部〉

高齢者サービスの課題を整理し、「はつらっライフなび（シニア支援コーナー）」の充実を図った。

(2) 広報・啓発業務

県立図書館の機能・役割を県民に広く周知するために、「要覧」、「千葉文化 千葉県立中央図書館報」、「West Library 千葉県立西部図書館だより」、「知識は旅をする 千葉県立東部図書館だより」、「利用案内」の編集・発行等のほか、次の事業を行った。

なお、職場体験・インターンシップの受入れについては、新型コロナウイルス感染拡大防止等のため実施しなかった。

ア 県立図書館ホームページの充実

イ オリンピック・パラリンピックをテーマにした展示の実施〈東部〉

ウ 広報紙等やソーシャルネットワークワーキングサービスを活用した所蔵資料・事業内容紹介

エ 千葉県資料の県民向け広報の実施

オ 広報紙等による所蔵資料・事業内容紹介

第6 県立図書館の事業点検及び再編準備

1 点検・評価

「千葉県立図書館行動計画」の進捗状況を図書館協議会に報告し、意見をいただくとともに、ホームページに公表して図書館サービスの向上や改善に努めた。

2 利用者アンケートの実施

図書館利用の満足度等利用状況を把握し、図書館運営の参考とするため、秋の読書週間に実施した。

3 県立図書館の再編準備

平成30年度からプロジェクトチームを設置し、1館集約に向けた物流や研修、資料収集等といった課題の整理及び検討を行った。

- ・ 1館集約後の物流体制について、運営相談での聴取等を通じて得た市町村立図書館等の意見も踏まえ、検討を進めた。
- ・ 県内最後の1冊保存体制の検討について、国内の先行事例等を分析し、個別調査に係る調査項目の検討を進めた。
- ・ 重複して所蔵している図書について、狭隘化の著しい中央図書館から優先して除籍作業を行った。
- ・ 非来館型サービスの推進のため、郵送による資料貸出券交付申込みについて準備を進め、令和3年4月1日から実施した。

4 東部図書館における旭市図書館の一部使用

東部図書館の旭市への移譲までの間、当館の一部を旭市図書館として使用することに伴い、令和3年7月10日に旭市図書館が当館内に開館した。

千葉県立図書館行動計画(令和3～5年度)進捗状況(令和4年3月末現在)

令和4年度第1回図書館協議会資料

【資料2】

	重点項目	主な取組	スケジュール			主な取組の進捗状況(今後の見通し含む)	評価指標	目標値	実績値	実績値	
			R3	R4	R5						R2
1	図書館ネットワークの発展	(1) 市町村立図書館等への支援の強化	【市町村立図書館等への貸出し、相談事業等の推進】 ・市町村立図書館等を通じた貸出しについて広報を進める。 ・毎年全市町村を訪問し、図書館の運営等についての調査相談を行うとともに、電話やメール等を通じた相談を随時行う。	▶	▶	▶	・全市町村を訪問し、各図書館の課題について運営相談を行った。中央：1回目8箇所、2回目24箇所、延べ32箇所実施済み 西部：11箇所実施済み 東部：1回目16箇所、2回目16箇所、延べ32箇所実施済み。また、電話やメール等を通じた相談を随時実施した。 ・3館それぞれ相互協力担当者会議を4月～5月に開催し、相互協力業務の確認や情報交換を行った。 ・県内市町村立図書館等読書施設に対して、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う臨時休館等の状況及び閉館後のサービス状況を調査し、ホームページに掲載した。	市町村立図書館等への貸出冊数	75,000	62,946	72,022 (96.0)
			【新館における物流体制の検討】 ・現状の課題等について市町村立図書館等に運営相談等を通じて聴取するとともに、全県でアンケートを実施し、新館整備に向けて検討を進める。	▷	▷	▶	・1館集約後の物流体制について、3月に物流担当者会議を開催し、検討を行った。 ・県立図書館資料の受取・返却場所の拡張の可能性について検討を開始した。 ・県内アンケートの内容について、高校への配送方法も含め、検討を行った。 ・実態調査の結果を公表するとともに、冊子にして県内各館に送付した。	市町村立図書館等の運営相談件数	120	108	188 (156.7)
			【県内最後の1冊保存体制の検討】 ・先行する図書館や団体等に個別調査を行う。 ・課題等について市町村立図書館等と情報交換を進め、県内の保存体制のモデル案を検討する。 ・市町村立図書館等が最後の1冊を確認できるよう今後の電算システムに盛り込む機能を検討する。	▷	▷	▶	・個別調査の調査項目を県立図書館の今後の在り方及び電算システムの機能を考慮し案を作成した。 ・今後、県内市町村立図書館等への意見聴取を検討している。 ・次期電算システムでは機器更新のみとなったため、次期期の電算システムで検出機能を盛り込む予定。				
2	図書館職員の資質向上	(1) 図書館職員研修センター機能の強化	【経験別、分野別研修の実施】 ・研修結果の分析をし、研修プログラムの充実を図る。	▶	▶	▶	・新任職員、児童、レファレンス、障害者、学校図書館運営、中堅、課題解決支援、地域行政、大学連携の各研修を実施した。 ・各研修時のアンケート結果を分析し、課題の整理を進めている。	研修受講者の満足度	94.5%	94.5%	90.0%
			【研修機会の拡充】 ・開催方法を検討し、遠隔開催や地域別開催を実施する。	▶	▶	▶	・中央図書館主催研修事業の開催場所について検討し、県文化会館を会場とした。一部の研修会については同時にもしくは完全に遠隔で研修を実施した。				
			【研修内容のアーカイブ化】 ・国内の事例等について調査し、課題等の洗い出しを行う。	▷	▷	▷	・研修内容のアーカイブ化(ホームページでの公表等)について、他県等に対する調査項目など検討した。また、研修内容や事業報告については、ホームページでの公表を開始している。				
3	子どもの読書活動の推進	(1) 地域の子どもの読書環境整備の推進	【児童資料の研究支援の推進】 ・児童文学研究や子どもの読書に関する活動に役立つ資料を揃え、子どもと児童文化に関する情報を蓄積するとともに、調査研究活動を支援するツールを提供する。	▶	▶	▶	・児童資料研究書の収集を継続している。	地域の子どもの読書活動の推進に資する刊行物	2	0	1 (100.0)
			【子育て支援情報サービスの推進】 ・子育てに資する図書等を収集するとともに、県関係機関と連携しながら子育て支援情報の発信を進める。	▶	▶	▶	・子育て支援関連資料の収集を継続している。3月末までの受入資料は6点。 ・「図書館から世界が見える」で、子育て支援に関連するテーマ「子どものワクチン接種」を公開した。				
			【児童書の網羅的収集の検討】 ・市町村立図書館等が児童書を購入する際の参考となるような収集方法について、国内の先行事例等を参考に方法を検討する。	▷	▷	▷	・令和2年度に実施した都道府県立図書館への照会結果を分析するとともに、個別調査先の検討を進めた。				
			【新しいサービスの研究開発】 ・図書館利用の困難な子どもや保護者について、実態把握に努め、利用支援方法を検討する。 ・ヤングアダルト(ティーンズ)サービスの全県でのサービス充実を目指す方策を検討する。 ・地域の子どもの読書活動の推進に資する刊行物を発行する。	▷	▷	▶	・日本語を母語としない子どもの読書活動の支援として、どのようなサービスや資料が求められているかを把握するため、当事者を支援する団体へ聴取を行った。 ・ヤングアダルト(ティーンズ)サービスについては、9月の県内公共図書館員向け研修会において講演と県内3市の事例発表を行った。 ・計画初年度は、「子どもの読書活動推進センター通信～子どもの読書をめぐる人々をつなぐ架け橋～」第1号の発行準備を進め、1月5日付で創刊した。次年度以降令和5年度までに年2回刊行の定期刊行物として軌道に乗せることを目標としている。				
			【県立学校等への貸出し、相談事業等の充実】 ・県立学校等の相互貸借について実態調査を進め、ニーズを把握するとともに、未登録校への広報活動を実施する。	▶	▶	▶	・各会議が中止となったため、学校訪問等を実施する際に、相互貸借などの実態調査や資料を活用しての授業参観を行い、ホームページで公表することで、利用促進を図っていく。 ・中央図書館管内の未登録校へ事業説明を行い、新規登録を進めた(新規登録3校)。 ・西部図書館では、管内の高校に対し、新規登録及び利用促進のためサービス案内文書を送付した。 ・運営相談を実施した(西部：12月に1校訪問、運営相談を実施。東部：12月までに21校、のべ24回訪問、運営相談を実施)。 (※特別支援学校については【特別支援学校への読書支援の充実】の項に別掲)	県立学校等への貸出冊数	31,000	18,841	19,968 (64.4)
(2) 学校図書館への支援の強化	【学校貸出セットの充実】 ・貸出セットについて、内容の検討及び整備を推進する。 ・要望の多い貸出セットを調査、把握し必要性の高いものの重複購入を進める。	▶	▶	▶	・要望の多い貸出セットや改訂が必要なセットについて調査検討し、改訂、新規セットを作成した。今年度は新型コロナウイルス感染症等の影響で需要の多かった「健康」分野において、資料が古くなっており、最近需要がなかった2セットを廃止するとともに、新たな内容で2セットを新設、4セットを改訂した。また、SDGsに関わる「環境」分野で2セットを新設した。さらに、希望の多い大型絵本についても、新規で6冊を購入した。大型絵本を含め、新規購入・改訂等を実施したセットは11であり、購入冊数は計201冊であった。	学校貸出セットの新規整備・改訂数	10	8	11 (110.0)		
	【生徒向け読み聞かせ講座、図書館活用講座等の実施】 ・生徒向け読み聞かせ講座、図書館活用講座等を実施する。	▶	▶	▶	・生徒向け読み聞かせ講座について、今年度は県立高等学校8校へ訪問して講座を実施した。 ・小中学校支援モデル事業の開発を目指し、県立中学校にて、蔵書検索の方法等についての授業を行った。						
	【市町村立図書館等と小中学校との連携への支援】 ・市町村立図書館等と小中学校との連携状況を調査する。 ・小中学校支援モデル事業として貸出セットの作成を検討する。 ・図書館未設置市町村等が小中学校との連携を推進できるよう、資料の支援を行う。	▶	▶	▶	・令和2年度末にまとめた市町村立図書館等と小中学校との連携状況について、他の資料とともに各館に配布した。今後も運営相談で聴取し、適宜更新することで、貸出しの需要について把握するとともに、資料活用の推進を図る。 ・図書館未設置市町村への訪問時に小中学校の教科指導で使える教科書単元・テーマ別資料リストを更新したものとその図書見本を持参し、管内小学校等への周知を依頼した。なお、中学校用リストについては、「地球と宇宙」「生物の体のつくりとはたらき」「私たちの生活と政治・個人の尊重と日本国憲法」の3件を作成した。小中学校への資料貸出の傾向を把握するとともに、市町村立図書館等読書施設での資料購入(選書)の支援をしていく。						
	【特別支援学校への読書支援の充実】 ・学校訪問等でニーズと支援方法を探り、読書支援を継続、推進する。	▶	▶	▶	・特別支援学校への訪問、絵本の読みかきかせを中心とした「おはなし会」や運営相談を実施。その際、未登録校には登録方法を案内し利用促進を図る。 ・中央図書館では、7校でおはなし会を実施し、2校で運営相談を実施した。 ・西部図書館では7校(8回)に訪問し、おはなし会等を実施し、1校に運営相談を実施した。また、管内の特別支援学校に対し、新規登録及び利用促進のためサービス案内文書を送付した。 ・東部図書館では3校に訪問し、おはなし会を実施した。また、のべ8校で運営相談を実施した。						
		【探究学習支援への対応】 ・教科書単元・テーマ別資料リストについて、順次内容の追加・改訂を進めるとともに、市町村立図書館等を通じて周知を図る。 ・図書館を使った授業等についての情報発信を進める。 ・探究学習についての利用支援方法を検討する。	▶	▶	▶	・新学習指導要領の内容を踏まえ、「図書館から世界が見える」で「探究学習」を作成した。 ・運営相談時に小中学校の教科指導で使える教科書単元・テーマ別資料リストを更新したものとその図書見本を持参し、管内小中学校等への周知を依頼した。なお、中学校用リストについては「地球と宇宙」「生物の体のつくりとはたらき」「私たちの生活と政治・個人の尊重と日本国憲法」の3件を作成した。 ・小中学校への資料貸出の傾向を把握するとともに、市町村立図書館等読書施設での資料購入(選書)の支援をしていく。 ・探究学習についての利用支援方法の検討について、令和4年度事業計画の重点事業とし、「とよ部っ！～中学生の本だな～」ページでの情報発信等に取り組むこととした。					

	重点項目	主な取組	スケジュール			主な取組の進捗状況(今後の見通し含む)	評価指標	目標値	実績値 R2	実績値 R3	
			R3	R4	R5						
4	課題解決支援図書館	(1) 課題解決支援、調査研究機能の強化	【課題解決支援サービスの充実】 ・法律情報支援サービス、医療情報支援サービス、シニア支援情報サービス等を推進する。 ・行政課題等の解決に資する資料を収集、提供する。	▶	▶	▶	・法律・判例情報サービス:くらしに役立つ法律・判例情報講座を県内市町村を会場として11月に開催するとともに、「利用者対応に必須の法情報とリサーチの基礎」をテーマに課題解決支援サービス研修会(図書館等職員対象)を11月に開催した。(中央) ・医療・健康情報サービス:11月にインフォデミック下における医療・健康情報の提供をテーマにした課題解決支援サービス研修会(図書館等職員対象)を、1月に医学論文情報データベース(医中誌Web)についての研修会を開催した。医療・健康情報サービス振り返りプロジェクトチームにより蔵書構築や利用調査の内容について検討、3月からアンケート調査開始。(3/19~5月にかけて実施予定)(西部) ・世界アルツハイマー月間に合わせ、認知症に関する資料展示を実施。(西部・東部9月)	パスファインダー及び「図書館から世界(ニュース)が見える」発行件数	15	15	16 (106.7)
			【レファレンス事例の一般公開】 ・国立国会図書館レファレンス協同データベースへのデータ提供を進める。	▶	▶	▶	・レファレンス協同データベースに事例を52件(千葉県関係は5-(1)に別掲)登録した。				
			【県民向け講座の実施】 ・図書館活用講座、データベース活用講座等を実施する。	▶	▶	▶	・各館の特長を活かし、以下の県民向け講座を開催している。 くらしに役立つ法律・判例情報講座(中央11月21日13名参加、1月に第2回を開催予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止)、サイエンス・カフェ(西部10月30日17名参加)、歴史講座(東部11月26日29名参加)				
			【時事問題等に関する情報提供サービスの実施】 ・時事問題や地域の課題等に関する資料の紹介、ブックリストやリンク集等の作成、提供を行う。	▶	▶	▶	・「図書館から世界(ニュース)が見える」を合計11号(千葉県関係は5-(1)に別掲)刊行した。 ・新型コロナウイルス感染症(関連リンク集)を改訂した。(西部6月)				
			【電子書籍の導入の検討】 ・電子書籍について費用も含めた導入の検討を進める。	▷	▷	▷	・所蔵資料との重複や調査研究機能に重点を置いた場合の利便性の比較、他の県立図書館での導入及び利用状況、導入に要する経費等について検討を進めている。				
			【新館整備に向けた資料管理の検討】 ・引き続き重複図書、雑誌の除籍を進める。 ・各館で別々に所蔵している雑誌の書誌統合を進める。 ・電子書籍の収集等、新館を見越した資料の収集、整理方法について検討を進める。	▷	▷	▷	・引き続き重複図書、雑誌の除籍を進めている。 ・各館で別々に所蔵している雑誌については、所蔵状態及び書誌を確認している。確認が終了のものから書誌統合を進める予定である。 ・電子書籍を導入するための予算要求を行った。運用に向けたサービス内容や位置づけを検討中。新館を見越したその他の資料の収集、整理方法については市場の動向に注視しながら検討を進める。				
5	千葉県に関する資料や情報の蓄積・継承	(1) 千葉県関係資料の計画的な収集整備、保存及び情報発信の推進	【千葉県関係資料の網羅的収集】 ・官公庁や関係部署へ情報収集をし、寄贈資料の収集に努める。また、インターネットでの提供に移行した資料についても、漏れのないように収集する。 ・インターネットや新聞記事等で出版情報を幅広く集め受入に繋げる。	▷	▷	▷	・千葉県関係資料の3月末現在の3館の収集状況は以下のとおり。 中央は購入195冊、寄贈1735冊、合計1930冊。西部は購入44冊、寄贈348冊、合計392冊。東部は購入48冊、寄贈251冊、合計299冊。 ・網羅的収集については、連携協力を進める文書館とも調整しながら検討していく。	千葉県に関する情報発信件数 (レファレンス事例、パスファインダー、テーマ別リスト、「図書館から世界(ニュース)が見える」作成件数)	40	39	39 (97.5)
			【千葉県関係の情報検索ツールの充実】 ・国立国会図書館レファレンス協同データベースへのデータ提供や新聞雑誌記事索引、人名索引、デジタルアーカイブ、パスファインダー、テーマ別リスト、目次情報など、千葉県関係の情報に到達しやすい環境を整備する。	▶	▶	▶	・千葉県関係として国立国会図書館レファレンス協同データベースに27件登録した。パスファインダー1件、テーマ別リストを10件、「図書館から世界(ニュース)が見える」1件を作成した。				
			【千葉県資料のデジタル化】 ・地図や郷土誌、県が編集発行した行政資料など計画的にデジタル化を進める。	▶	▶	▶	・昨年度着手した町村合併関係資料や明治以降の洋装本をデジタル化し、公開した。				
			【インターネット上の地域行政資料の動向等調査】 ・ポーンデジタル資料の収集やオープンデータの活用など、国内の動向について調査を行う。	▷	▷	▷	・ポーンデジタル資料の3月末現在の3館の収集状況は以下のとおり。ポーンデジタル資料をプリントアウトし、中央155冊(逐次刊行物52タイトル155号分)、西部80冊(逐次刊行物4タイトル80号分)、東部26冊(逐次刊行物2タイトル26号分)を収集した。 ・国内の動向等の調査については、調査手法や内容について検討を進めていく。				
6	知の創造と循環を生み出す公共の場	(1) 博物館など関係機関との連携の推進	【関係機関と連携した事業の実施】 ・博物館や文書館、さわやかちば県民プラザ等と連携して、展示、講座等を実施する。 ・関係機関が実施する講座等へ、職員を講師として派遣する。	▶	▶	▶	・中央図書館では、「読み聞かせ講座」(県民プラザ主催)をオンラインにて開催した。中央博物館特別展「バラのすべて」に合わせたトークイベントを開催し、ブックリストを作成配布した。「くらしに役立つ法律・判例情報講座」「第2回地域行政資料研修会」では、それぞれ法テラス千葉法律事務所、千葉県立郷土博物館から講師を招いた。図書館内に第32回中央読書感想画コンクール千葉県入賞作品を展示した(千葉県学校図書館協議会千葉県教育研究会学校図書館部会及び千葉県高等学校教育研究会学校図書館部会主催)。また、千葉社会教育施設等(県民プラザ・図書館・中央博物館・文書館)の事業連携に関する意見交換会を開催した。 ・西部図書館では、「認知症」理解普及月間に健康福祉部高齢者福祉課と連携し、資料の展示、リーフレット配布及びTwitter、HPでの資料紹介を実施した。千葉県立中央博物館から講師を迎え自然災害についての「サイエンス・カフェ(講演)」を開催した。ちばの食育月間には、農林水産部安全農業推進課と同流通販売課、千葉県観光物産協会と連携し、資料の展示、パンフレット類配布及びTwitter、HPでの資料紹介を実施した。 ・東部図書館では、「第5回旭いとおか文芸賞「海へ」作品集第5集出版記念会」(旭いとおか文芸賞「海へ」実行委員会主催)に参加した。「高校生パワーアップ講座」(千葉県防災研修センター主催)において、旭いとおか文芸賞「海へ」の審査員の立場で選評についての講話を行い、東部図書館展示「東日本大震災」について紹介した。中央博物館特別展に合わせて、バラの関係資料を展示した。東部図書館の展示リストと3館で作成したブックリストを、トークイベントで配布した。「千葉魅力発見コンサートin東総」に合わせて東総文化会館内に北総四都市に關係する資料を展示し、展示リストを配布した。「歴史講座」では、千葉県文書館から講師を招いた。中央博物館主催のお浜降りセミナー2021の第2回目について共催で実施した。	連携事業の実施回数	15	13	16 (106.7)
			【関係機関との連絡調整会議の実施】 ・博物館や文書館、さわやかちば県民プラザ等関係機関との情報共有を進める。	▶	▶	▶	・中央博物館、さわやかちば県民プラザ、文書館の担当者間で連携事業等について、12月9日に意見交換会を実施した。				
		(2) 図書館利用が困難な人々へのサービスの充実	【障害者用コンテンツの充実】 ・点訳絵本、録音図書、テキストデータ等の作成を進める。 ・サビエ図書館や国立国会図書館等と連携し、所蔵資料の書誌登録や作成データの提供を推進する。	▶	▶	▶	・点訳絵本、録音図書、テキストデータの製作を進めている。 点訳絵本2タイトル(中央)、録音図書6タイトル、テキストデータ15件(西部)作成。 ・国立国会図書館へ提供した作成データは累計798件(音声DAISY785件、マルチメディアDAISY7件、プレーンテキスト6件)となり、令和3年度は4,840件(音声DAISY4,821件、マルチメディアDAISY16件、プレーンテキスト3件)の利用(ダウンロード)があった。	障害者サービス・多文化サービス関連のコンテンツの作成数	25	32	28 (112.0)
【障害者サービスの普及】 ・県内図書館向け研修や県民向け講座等を充実する。 ・遠隔対面朗読等インターネット等を活用したサービスや県内図書館等との連携を強化する。	▶		▶	▶	・中央図書館では、読書支援機器活用講座(第1回:8月19日8名参加、第2回:10月29日6名参加、第3回:10月29日7名参加)、サビエ図書館活用講座(12月14日25名参加)、図書館音訳者養成講座(初級)(第1回:12月21日7名参加、第2回:1月18日8名参加)を開催した。 ・西部図書館では、障害者サービス研修会(第1回:6月24日23名参加、第2回:6月30日19名参加)、障害者のための資料デジタル化講座(6月2日25名参加)、図書館音訳者養成講座(初級:11月12日・13日延べ18名参加、中級:10月27日・28日延べ32名参加)、読書支援機器活用講座(1月26日25名参加)を開催した。 ・オンラインによる遠隔対面朗読の試行について、HPや「県教委ニュース」で紹介(7~8月)、12月にモニター募集、3名の応募があり、1月から3月までにモニタリングを6回実施した。(西部) ・東部図書館では、図書館音訳者養成講座(第1回:12月10日8名参加、第2回:12月16日8名参加)を開催した。また、読書支援機器活用講座を1月26日に開催(7名参加)した。						
【新しいサービスの研究開発】 ・多言語・多文化社会や発達障害者への対応など新しいサービスの研究開発を進める。	▷		▷	▷	・西部図書館では、外国語の利用案内(英語・中国語・韓国朝鮮語)を改訂(8月)、パスファインダー「『発達障害』について調べる」を改訂し、館報のテキストデータ版の提供を開始した。(2月) ・新たに、著作権法第37条第3項に基づく視覚障害者等に該当しない方も利用できる録音図書のリスト(4点)を作成、公表し、県民への普及を図った。						
(3) 情報発信機能の強化	【積極的な広報・PRの推進】 ・ホームページやツイッターによる発信に努めるとともに、ブランディングについて研究を進める。	▷	▷	▶	・展示・イベント等の情報をホームページで発信するとともに、ツイッターでは時宜にあわせた資料紹介等を行っている。 12月17日にブランディングの研修を実施、3館で計48名の職員が参加した。	ツイッターの発信件数	360	315	528 (146.7)		

※令和3~5年度の各年度とも目標値を目指す。

※スケジュール凡例

▷: 検討段階

▶: 実施段階

※()は進捗率

西部

千葉県立図書館の障害者サービス

ご存知ですか？

活字による読書や

図書館利用が困難な方へのサービス

障害者手帳を持っている千葉県民は、

およそ **28万** 人。

そのうち、県立図書館を

利用している方は **425** 人、

わずか **0.15** %です。

その多くが視覚に障害のある方です。

11,020人

視覚
障害

その他の障害

- 肢体不自由
- 内部障害
- 聴覚障害
- 音声・言語等の機能障害
- 知的障害
- 精神障害

267,734人

■市町村ごとの障害者手帳所持者数 令和3年3月31日現在（健康福祉部障害者福祉推進課 障害者手帳審査班）
千葉県オープンデータサイト <https://www.pref.chiba.lg.jp/shoufuku/techou/toukei.html>

■要覧 令和3年度（千葉県立中央図書館、千葉県立西部図書館、千葉県立東部図書館）

どんな
サービス？

どんな人が
対象？

実際、
どんな感じ？

教えて！
西部図書館

私たちの
取り組みを
紹介します



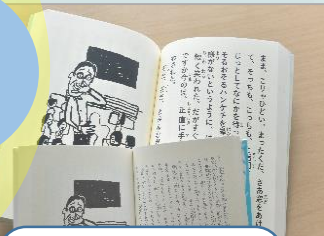
県立図書館の取り組み

障害者と図書館利用

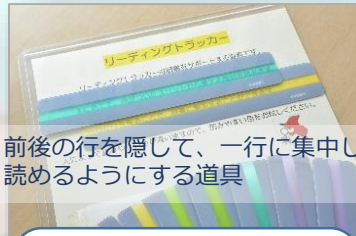
千葉県立図書館では、視覚等に障害のある方へは録音図書の製作や貸出し、対面朗読を行い、特別支援学校へはおはなし会や本の紹介などの訪問読書支援等を通じ、図書館利用が困難な方の読書を支援しています。

また、サービス普及のため、読書支援機器が体験できる県民向け講座を行っています。

見えにくい方に



大活字本



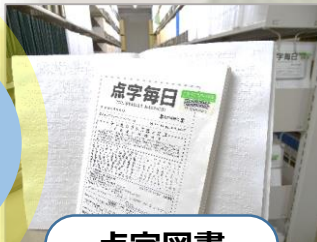
前後の行を隠して、一行に集中して読めるようにする道具

リーディングトラッカー

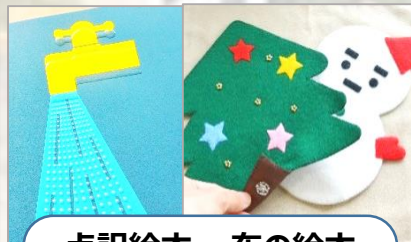


拡大読書器

見えない方に



点字図書



点訳絵本・布の絵本



音声付き
拡大読書器

スキャンした文字を、音声と拡大表示にて利用できる道具



音声デジ
タリ再生機器

カセットテープに代わるデジタル録音図書の再生機器

ご本人
ご家族
支援する方の
ために

読書バリアフリー講座

障害者の情報収集や読書環境の改善のため、それぞれの障害に合った読書支援機器等の最新事情や活用法を、実演を交えて紹介しています。

これまでの講演内容

- ・音声読書器や拡大読書器の使い方
- ・当事者視点で語るパソコン・スマートフォンの操作の実際
- ・視覚障害者の生活をITで支援する取組とハイテク読書環境

サピエ図書館活用講座

サピエ図書館は、全国で製作・所蔵されている録音図書や点字図書のデータを集積しているデータベースです。

講座では、資料の検索やダウンロード、オンライン・リクエストの操作方法を紹介しています。



聞こえ
にくい
方に



聞きやすい音声に変換する
指向性マイクスピーカー

対話支援機器

聞こえ
ない方に



筆談用具

肢体や発達の
障害・病気の
ある子ども
たちに



チーバくん

特別支援学校への訪問読書支援

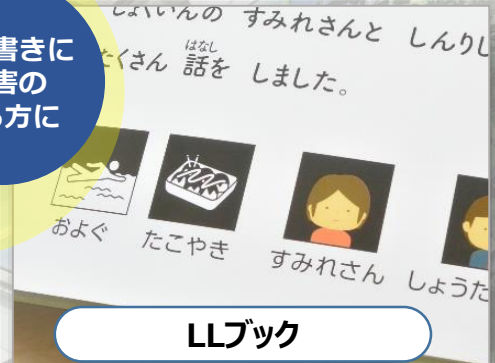
特別支援学校を訪問し、おはなし会を実施しています。小学部・中学部では、手遊び歌でリラックスした後、絵本の読み聞かせをします。

事前に担当の先生方と十分に打ち合わせをし、できるだけ子どもたちの実態や授業のねらいに合った本でプログラムを作成しています。高等部には、図書館クイズや図書館の使い方などの読書活動支援も行っています。



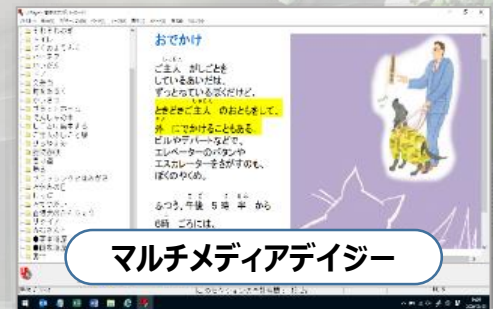
特別支援学校への訪問読書支援

読み書きに
障害の
ある方に



LLブック

誰もが読みやすいように、
表記が工夫された本



マルチメディアデージー

文字、音声、画像を同時に再生できるデジタル録音図書（写真は、読み上げている箇所がハイライトされている様子）

支援
する方の
ために

音訳者養成講座・資料デジタル化講座

録音図書やテキストデータの製作における技術向上を図るため、音訳者や公共図書館・特別支援学校等の職員に向けて、実習を交えて開催しています。

これまでの講演内容

- ・音訳に適した発音・発語のポイント
- ・意味を伝える読みの技法
- ・図や写真の説明のポイント
- ・アクセント辞典の使い方や読みの調査法



西部図書館の障害者サービス事業について

西部図書館では、特に視覚障害の方向けに、オンラインによる対面朗読や本のテキストデータ化などの新たなサービスに積極的に取り組んでいます。

読みたい本を
リクエストするには

対面朗読サービス (1コマ2時間以内)

図書館の対面朗読室で、音訳者が直接読み上げるサービスです。本に掲載されている写真・絵・図表の内容も音訳者が説明します。

音訳者と読み進め方を相談したり、わからない言葉が出てきたときに質問したりできます。

西部図書館では、ご自宅からオンラインで音訳者とつながる「オンラインによる対面朗読」も行っています。

WEB会議システムZoom等を利用できるパソコンやスマートフォン等が必要です。

録音図書の利用

すでに市販もしくは製作されている録音図書を郵送で借りられます。(送料無料)

県立図書館に所蔵していないときは、全国の図書館から借り受けたり、サピエ図書館(※)などからダウンロードして提供します。

点字データの場合は、点字ディスプレイでの閲覧、点字プリンタでの印刷、合成音声による読み上げ利用ができます。

※録音図書や点字図書のデータベース
35万点ダウンロード可能(全国最大)

テキストデータの製作

録音図書よりも製作期間が短く、依頼から数週間で利用できます。

合成音声による読み上げのほか、自動点訳ソフトにより、点字での利用もできます。

録音図書の製作

誤読の恐れがある合成音声ではなく、肉声による録音図書も依頼できます。すべての読みを調べてから録音するため、完成まで数か月から数年かかります。

障害者サービス研修会

西部図書館では、障害者サービスの基本的な内容や先進事例を学ぶために、図書館職員向けの研修会を実施しています。

これまでの講演内容

- ・ 障害者サービスを始めるための基礎
- ・ 関係法令や各種計画を学ぶ
- ・ 障害者サービス資料について(布の絵本ほか)
- ・ マルチメディアデージー教科書の現状と展望
- ・ 知的障害のある人と「わかりやすい」情報提供
- ・ 発達障害者が求める読書、知的障害者や読字障害者が読める読書方法
- ・ 視覚・聴覚障害者、高齢者へのサービスについて(市町村立図書館での取り組み)



オンラインによる対面朗読

コロナ禍でも利用したいという声にこたえ、Zoomなどのアプリを使って自宅にいながら利用できる対面朗読を実施しています。

本の朗読だけでなく、電子書籍のうち「読み上げのない図の部分を読んでほしい」という依頼や、画面越しに一緒に折り紙をするなど、様々な使い方があります。



申し込み

希望日時・本の予約

日程調整

音訳者の手配・zoom準備

利用当日

オンライン対面朗読



本のテキストデータ化

活字による読書に障害がある方に対し、希望する本をテキストデータ化するサービスを行っています。テキストデータは、パソコンやスマートフォン等により拡大表示したり、音声で聞いたりすることができます。

テキストデータ化の方法は、本をスキャナーで読み取り、OCRソフトを利用して画像ファイルからテキストデータに変換した後、文字の誤認識の校正や、図や表など文字以外の情報の補足を行います。録音図書に比べ、短い製作日数で提供することができます。

申し込み

依頼する本の準備
図書館に依頼の連絡

製作

テキストデータ化作業

提供

各種データの提供

アクセシビリティへの配慮



アクセシビリティに配慮した情報発信

新しく県立図書館に入った本を並べ写真に撮り、ツイッターで紹介しています。

写真の内容を説明する「代替テキスト」として本の書名と著者名を入力しています。

パソコンやスマートフォンの読み上げ機能を使って、本の情報を確認できます。



サービスのもととなる法律

障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成25年法律第65号）

（通称：障害者差別解消法）

<https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/sabekai.html>

全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に寄与することを目的として制定されました。

視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（令和元年法律第49号）

（通称：読書バリアフリー法）

https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/1421441.htm

障害の有無に関わらず、全ての国民が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現に寄与することを目的として制定されました。

利用するには

身体等に障害があり図書館の利用が困難な方にも図書館資料をご利用いただけるように、様々なサービスや設備をご用意しています。図書館におけるサービスは無料です。ご利用に際しては、お気軽にご相談ください。

登録のご案内

サービスを利用するには、登録が必要です。

登録できるのは、県内に居住、通勤または通学していて、障害者手帳をお持ちの方、活字による読書が困難な方（ディスレクシアの方、医療機関の診断書・学校の証明書をお持ちの方、介護が必要な方など）です。手帳の交付を受けていない方はご相談ください。

県立図書館は中央図書館、西部図書館、東部図書館の3館あり、いずれかで登録すると共通で利用できます。

手続きは、本人または代理人が、来館・電話・ファクシミリ・点字文書のいずれかにより行うことができます。その際、住所、氏名、障害の種類、手帳番号（または活字による読書が困難であることが確認できる書類）をお伺いします。

各館のやさしい利用案内はこちら

障害のある方や、母語が外国語、手話の方にもわかりやすいよう、やさしい日本語や絵記号を使っています（点字データあり）。



中央図書館



西部図書館



東部図書館



千葉県立中央図書館

〒260-8660 千葉市中央区市場町 11-1

電話番号 043-222-0116 / ファクシミリ 043-225-8355

千葉県立西部図書館

〒270-2252 松戸市千駄堀（せんだぼり） 657-7

電話番号 047-385-4133 / ファクシミリ 047-384-1371

千葉県立東部図書館

〒289-2521 旭市 八の349

電話番号 0479-62-7070 / ファクシミリ 0479-62-7466

千葉県立図書館の
WEBページはこちらから

